



《主な争点》

「親水広場の改修・農業拠点施設整備」について、昨今の手賀沼周辺の環境の変化、沼の対岸で営業している柏市「道の駅しよなん」が、手賀沼アグリビジネスパーク事業として大きく機能強化する計画等が明らかになったことや、国道十六号沿い、四月に営業開始となる「セブンパークアリオ柏」の影響などを危惧し、これから取り組む市の農業拠点として、失敗は許されないことなどを考慮して、事業を進めるにあたって多くの心配する意見や疑問点、要望事項等が集中しました。

（■宏はこう考える にて後述）

その他、我孫子市の人口減少は東日本大震災があつた平成二十三年から続いています。当初は転入者よりも転出者が多かったための社会的な人口減少でしたが、最近では、生まれた子どもよりも亡くなる方が多い自然減が人口減少の主な要因となっています。我孫子市「人口ビジョン」では、平成二十七年一月、十三万二千人の人口が、このまま何も対策を取らないで推移すると、平成七十二年には七万七千人と現在より、五万人強の人口減少が予測されています。

《請願・陳情》

- ① 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する請願（可決）
- ② 国における二〇一六年度教育予算拡充に関する請願（可決）
- ③ 親子断絶防止法整備施策の請願（可決）
- ④ 介護報酬再改定請願（否決）

会派 あひこ未来 (主な質問骨子)

代表質問：早川 真議員

- 1. 総務企画行政：財政とまちづくり／公共施設等整備計画／契約改革
- 2. 教育福祉行政：子供の貧困／教育予算の拡充／困窮者自立支援制度
- 3. 環境都市行政：水の館（親水広場）／手賀沼終末処理場汚泥焼却問題／犬猫殺処分ゼロに向けて／船戸三丁目の造成工事問題



三月議会 印南宏の個人質問(骨子)

|  |
|--|
| <p>1、交通行政：常磐線&amp;成田線の利便化（含む新木駅駅舎と周辺の整備）</p> <p>成田線利便化運動の見直し・東我孫子駅の改善・上野-東京ラインの増発・新木駅駅舎への電光掲示板の設置・新木駅北口広場の整備<br/>下新木踏切の整備促進・常磐線特別快速の我孫子駅停車など</p> |
| <p>2、福祉行政：在宅医療と介護の連携</p> <p>新年度からの新たな介護予防事業・強化型のきらめきデイサービス事業・地域包括ケアシステムの構築</p>   |
| <p>3、広域行政：つながるウォーターサイドTEGA</p> <p>手賀沼公園から北柏ふるさと公園までの歩道拡幅と橋りょう整備・手賀川側道整備の進展</p>   |

ではないか？

企画財政部長 JR東日本への参加型イベントの提案や案内を中心に、成田線沿線自治体が展開する定住化策のPR・イベントの充実と情報発信の強化に取り組んでいきたい。

印南 成田線を補完する「シャトルバス」の運行」は？

建設部長 民間バス事業者が主体となって実施することで計画を進めている。このバスは新木・布佐地区から天王台駅への到達性を重視することを念頭に、停留所の場所等を選定し、運行時期は都市計画道路の整備に合わせて実施する予定である。

印南 平成二十九年三月のダイヤ改正に向けて、上野―東京ラインの増便を。

企画財政部長 次期ダイヤ改正に向け、常磐線快速電車と成田線直通電車の乗り入れがさらに一本でも多く確保されるよう、粘り強く要請していきたい。

印南 新木駅駅舎に電光掲示板や時計台の設置など魅力アップする施設整備を。

建設部長 駅という人の集まる場所であることを考慮して、南

北二階のエレベーター付近に掲示板と液晶モニターを設置を検討し、地域情報や市の情報発信に活用できるようにしたい。

**印南** 新木駅北口広場の早期整備を。

**建設部長** 北口広場の整備の必要性は認識している。今年度、事業化を図り、用地の確保が重要なことから地権者の意向を確認している。今後、北口周辺の現況確認を行い通行形態について検討していく。

**印南** 下新木踏切の拡幅、安全な歩道の整備、早期完成を。

**建設部長** 今年度、JR東日本が踏切の設計&施工を行うので、拡幅方法・施工時期・費用負担等の基本協定の契約を交わす。交付金は、社会資本総合整備交付金を予定し、平成二十九年年度から三十二年度で拡幅整備を実施する。

所属している「教育福祉常任委員会」での印南の主な質問骨子

○いじめ防止対策について

我孫子市アンケート調査では、過去五年間、小学校三百五十件、中学校六十件の認知件数で毎年推移している。インターネット

(SNS利用)によるいじめ問題、情報モラル教育の強化を。

○「組み体操」の中止について

市内小中学校十九校の内、十七校で組み体操を実施している。怪我が十七件と多くなっているが、中止とした理由と今後は？現場の教師の指導力や児童生徒の力量、体力の問題もあるのか。子どもたちに幼い頃から体をしっかりと動かすことを習慣化、運動、遊び、外遊び、集団遊びを学校でも積極的に導入すべきではないか。

○「チーム学校」と部活顧問のあり方について

部活顧問を務める教員の多忙さ、休日返上の練習などの現状、文科省が検討している部活動指導員(仮称)の制度化、専門知識を持つ人材や地域の人たちと協力して教員を支援する「チーム学校」の取り組み状況と強化策は？

\*詳細は議会だより、市議会HPの録画等、いつでもみることができます\*

<http://www.discussvision.net/abikosi/2.html>



■宏はこう考える  
これで良いのか、我孫子市は！

「水の館」を含む親水広場の改修・農業拠点施設の整備について

「親水広場の改修・農業拠点施設整備」が今議会の予算審査特別委員会で大きな争点となりました。

争点となった理由の一つは、農業振興の拠点整備として市が選んだ運営方法について。現アンテナショップを運営している農事組合法人あびべじが中心となり、株式会社に移行、直売所や飲食店などを経営することについてノウハウの無さや準備不足を不安視する意見が多く出たこと。二つ目には、株式会社になった組織に公金を投じて整備した水の館フロアを無償貸与することについて、公正・公平性の視点で疑問視する意見。三つ目には、手賀沼の対岸で営業している柏市「道の駅しようなん」が競争相手となり、この「道の駅しようなん」農業施設が手賀沼アグリビジネスパーク事業として、今後大きく機能強化される計画等が明らかになったことなど、周辺環境の変化に対応できるのか、経営を不安視する意見などが出されました。その他に、

集客力をどのように確保できるのか、加工製品の開発状況、安全な交通アクセス網の整備、現直売所の跡地活用の今後など、様々な視点で事業の計画性を問う意見、農業振興の必要性は十分に理解する中で議論が集中しました。

私は市の施設となった水の館(含む農業拠点施設)は、市民に喜ばれる市民を味方にした親水施設、農業拠点にしななければならぬと考えています。そのためには農業拠点施設の経営責任の明確化、市の無償提供には厳格にルールを定めること、農産物の直売でも低農薬化など差別化する戦略を持つ拠点として充実させることなど、予算審査特別委員会では会派の意見として執行部に質問と要望を行い、回答を得たところです。これから施設改修は行っていきますが、実際の運営方法、ソフト面での整備にはコンサルタンの力を借りることはもちろん、市をあげてこの事業に不転の決意で取り組むことが必要になっていきます。





我孫子雑感

◆三月十五日、布佐中学校卒業式の卒業生は八十名。この日の生徒、一人ひとりの顔が、輝いて見えた。一人の人間が大人になるには、いくつもの分かれ道を選びながら進んでいく。時には涙し、悲しくて、悔しい時もある。挫けそうになった時に、やはり頼りになるのは、親や兄弟、そして友人たちである。布佐中学校の三年間とともに数々の壁を乗り越えて成長をしてきた最高の仲間たちは、きつとこれからの人生でかけがえのない宝物となるだろう。幸多かれと祈る。

◆一方で悲しい事件も起こった。広島で起こった中学三年生の自殺事件。十五歳は大人への選択の旅、始まりの地点。高校受験や就職等は初めて自分自身での選択となる。中学校での進路指導は生徒たちの選択を支援し、勇気づける仕組みのはずなのに、残念な出来事となった。亡くなった生徒は、ありもしない非行歴が誤って記録され、そのことを悲観、進路指導の後、自らの命を絶つてしまった。二度とこのような悲劇を繰り返さないために、進路指導を巡るやり

取りなど、不明確な点を徹底的に検証し、再発防止策が求められている。

◆インターネットやSNSは便利な反面、不用意な発言、発信によって、不特定多数の誹謗・中傷を受けるなど「炎上」を引き起こすことや個人情報への流出など、社会問題・犯罪事件に発展するなどの問題が多く起こっている。しかし、SNSの発展、利用を単純に止めることはできない。子どもたちのSNS利用に大人・保護者が向き合うにはどうしたらよいか。基本は、大人・保護者もSNSについて、しっかりと理解する。その上で、ネットを正しく利用できる能力を培い、ネットトラブルに巻き込まれないように家庭での話し合い、ルール化に努めることが大切である。ネットの基本は①世界中の人が見ている。②ネットの情報を鵜呑みにしてはいけない。③面と向かって言えないことはネットでは絶対に言わない。④ネットでは一度出たものは全て回収することは不可能。⑤ネットで行ったことは通信事業者に記録が残っている。ネットでは決して匿名にはならない。あらためてネット社会の急速な進歩、ネットの利便性と怖さを感じている。親子の関係ならば、普段

のコミュニケーションの大切さとSNSの世界でも普段の人間関係の大切なことを再認識させられた。

◆福祉ジャーナリスト、町永俊雄氏(元NHK福祉ネットワーカーキャスター)の講演を聞いた。現代は「安心」から、日増しに「不安」の安にシフトしている。日本のセーフティネット、医療・年金・福祉の社会保障が大きく揺らいでいる。非正規労働者を守るか。しのび寄る貧困、子供を救えるか。ワーキングプア、女性の貧困、無縁社会、老人漂流の時代等、日本は世界でも経験したことのないスピードで少子超高齢社会へと向かっている。新たな視点で施策の展開をしなければならぬ。例えば、認知症は五人に一人が認知症になる時代。認知症と共にやさしい社会をつくる必要がある。そのためには「誰かがやってくれること」から「自分たちのこと」「何が自分ではできるか」が重要となる。日本の家族の前提条件も大きく変わっている。昔は、誰もが結婚し、子どもは二人か三人、妻は家で子育てと家事、専業主婦。夫は定年まで働く。が前提だった。これからは人と人、世代を超えて、つながる社

会づくり、地域を再生させることが必要になってきている。そのためには「早く、大きく、強く」から、「ゆっくりでも、小さくとも、弱くても」、ともに生きる社会をつくっていかう。人間こそ唯一の富である。価値観を変える。パラダイムシフトの世紀である。無償労働、協力原理のある社会システムの構築が今、必要になってきている。



宏

印南 宏 後援会・自宅

〒270-1108

我孫子市布佐平和台 7-1-18

TEL : 7189-1598



※後援会事務所の連絡先が変更になりました

E-MAIL : hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp

ブログ : http://hiroshi4649.at.webry.info/

HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/